いわて未来づくり機構 第４回ラウンドテーブル

日時：平成 21 年２月９日（月）13:30～15:30
盛岡市産学官連携研究センター１階大会議室

次　　第

１　開会

２　ディスカッション

①　第２作業部会の活動状況について
②　製造業を中心とする今後の振興策等について

３　協議事項

作業部会からの提案について

４　報告事項

①　「県民みんなで支える地域医療シンポジウム」について
②　産学官連携拠点形成支援事業への提案について

５　その他

６　閉会

出席者名簿

氏　名	所　　属
永　野　勝　美	((社)岩手経済同友会代表幹事、岩手県商工会議所連合会会長)
平　山　健　一	(独立行政法人科学技術振興機構 JST イノベーションサテライト岩手館長)
達　増　拓　也	(岩手県知事)
谷　口　　誠	(公立大学法人岩手県立大学長)
玉　山　　哲	(盛岡商工会議所副会頭、(株)東山堂代表取締役社長)
元　持　勝　利	((社)岩手経済同友会副代表幹事、岩手トヨペット(株)代表取締役社長)

第４回ラウンドテーブル議事録メモ

日時：平成 21 年２月９日（月）13：30〜15：30
場所：盛岡市産学官連携研究センター１階大会議室

＜ディスカッション＞

①　第２作業部会の活動状況について
　　資料１により、第２作業部会座長岩手大学岩渕教授より説明

②　製造業を中心とする今後の振興策等について
　　（岩渕教授からの説明をもとに議論）

永野会長
・第２作業部会の議論の方向性についてはよいと思う。
・今後どうもっていくかという点に関してはまだ漠たる感じなので、具体的に詰めていく必要がある。
・農商工連携について三菱商事の課長クラスの人たちと話し合いをはじめたところである。
・同様に、製造業の問題についても、いかに現実のレールにのせるかが大切である。
・提案事項については、フレームとしてはまったく問題ないが、実践のレールにのせるにはどうすればよいか、そこのところについて迫力ある話があるとよい。

岩渕教授
・状況の変化により、現状ではできる範囲が限定されてしまっている。

元持社長
・団塊の世代のジュニア世代（30〜35 歳）が作るだろう大きな市場を楽しみにしている。
・大企業のすき間を見つけだして、チャンスをとらえることはまだ可能だと感じる。

玉山社長
・様々なところの審議会で委員をしているが、役所、大学とそれぞれの役割の中ではがんばっているのだが、自分の土俵でしか審議などをしていないため、民間も入っていろんなことを言っているにもかかわらずなかなか前に進まないという現実がある。
・審議されたものをまとめて終わり。それらが次に活かされていないと感じる。
・産業の循環性、地域の循環性に関する共通の議論の場として、未来づくり機構がパラダイムシフトのきっかけになればいいと思っている。そのために組織の連携を積み重ねる必要がある。

・機構として一本化した議論の場の提供が必要であり、こういう時期だからこそシーズがあるのではないか。

達増知事

・雇用確保をお願いして歩いているが、喫緊の雇用対策だけでなく、研究開発拠点を岩手にとか、次世代の製品を作っていく工場（東芝を含めて）新しいラインを増やしていこうという話も中期的な視野では大きな会社はもっており、県としてもきちんと応えられることが大事だと思っている。
・岩手の強みとしては、人材育成や産学官連携といったことが熱心に行われているところであり、こうした危機的状況のなかでいわて未来づくり機構ができていることは非常にいいことだと思っている。
・いわて未来づくり機構を活かして、人材育成、産学官連携をさらに強くしていくことが大切である。
・緊急アクションプランの各提案は、こういうときだからこそこういうことを、きちっとやっていくことが大事だと思う。

平山館長

・大学は中・長期的な見方になってしまう。
・景気の見通しが大切。見通しがわかれば、どこまでがんばればいいかが見えてくる。
・第２作業部会のプランはよいと思う。
・岩手大学としてもアグリフロンティアや岩手マイスターなどさまざまな取り組みを行ってきたが、これまでの試みで不十分であった。それはなぜかと考えると、大学のあり方そのものに対する社会からの期待をはっきりと表明して欲しいと思う。
・岩手大学工学部でも、ＪＳＴのシーズ試験への応募者が４人に１人しかいない。工学部でさえその状況であり、その他の分野も含めると実用化、起業化に対する認識が薄いという現実がある。
・大学という組織が地域貢献へ取り組むという大きな柱をしっかり立てているか。大きな柱なしに研究の継続性はない。そうした面が今の大学には少々欠けていると感じる。
・品質管理、マーケティングや知財管理の分野の文系の貢献、さらに、プロトタイプの試作工場を、ぜひ産業界と大学の間において整備することが必要である。
・経営者のやる気をアピールすべき。従業員や家族を大切にする、岩手らしい優れた経営者を知らしめることで、人材の定着にも役立つのではないかと思う。

谷口学長

・総花的にはよくできているが、すべてできるわけではないので、どこに重点を置くかという点が読めないので、さらに詰めて欲しい。

・何か自信がないように見える。
・自分の住んでいる近所の明治屋にも岩手産品がたくさん並んでいるのをみても、もっと自信を持っていい。
・工業製品といってもたくさんあり、どこに重点を置くか、自動車、IT、焦点をどこかに合わせないと困るのではないか。
・岩手県として一番得意な分野を出していく必要があると考える。岩手の特徴をどこに出していくのかを明確にしないと機構の活動も効果が出ない。
・今の経済危機はある面ではチャンスであると考える。中国・韓国は輸出に頼っており、今の危機の影響をもろに受ける。日本は中国、韓国ほどではないため、内需もある。
・中国・韓国をはじめ、アジア各国が内需に目を向ける中で、岩手県はどういう方向にいこうとするのか。岩手ももっと視野を広げてアジアとの関係を考えていく必要がある。

藤井学長
・厳しい状況の中で、粛々と作業を進めてきた第２作業部会に敬意を表する。
・大学として足りないところがまだあるということをあらためて感じた。
・大学の教員は元々研究者であり、一般的にどこに役立つのか、何が求められているのかという視点はあまりないことも多い。
・自動車産業といっても、部品の地域内調達率はよくて４割、厳しく見ると２割程度であり、地域への貢献度はあまり高くない。
・農商工連携は、内需を育てていくためには有効であるが、一方で、農商工連携もガラパゴス化の傾向があると感じる。一般性をもたない可能性があるので、地域外にも通用するように産学官連携を進めることが必要だと感じている。
・ガラパゴス化――独立した環境の中で個々に進化　日本の携帯電話などがその例

永野会長
・研究開発型が目指す方向であり、重視すべきである。
・関東自動車工業においても、研究開発への投資は、増やすことはあっても減らすことはないとの話を聞いてきた。
・次世代自動車の設計のために北上に研究開発拠点の設置を考えているというニュアンスの話を聞いた。

達増知事
・県の人口流出は、20 世紀終わりから千人ずつ増えてきていたが、昨年はじめて歯止めがかかった。
・日本全体の景気が悪くなる中で、首都圏や工業地帯の人材吸引力も弱まったからではないかと思っている。

・県内の有効求人倍率がさらに悪化し、失業が増えているときにさらに人が残るのは、雇用の面からみると大変だが、人材の観点からみるとチャンスということもできる。
・岩手は技術・技能の人材は流出する方が多かったのだが、流出に歯止めをかけて残ってもらうという新しい構造をつくるためのチャンスととらえるとともに、やらないと県内にだぶついている人材が路頭に迷ってしまうことになるので、正念場であると思っている。
・自動車関連産業と半導体関連産業を二つの大きな山とした連峰型のものづくり産業の集積を図るというのが岩手県のものづくり産業集積の基本戦略である。
・それぞれ今の世界経済危機において大きな痛手を被ってはいるのたが、ラインそのものは減らしていなかったり、次世代工場を立地する企業もあり、中期的には先端的な産業集積というのは重要だと考える。
・また、短期的にみても、たくさんの失業が生まれているのも事実だが、こういうご時世の中で、全体で数万人規模の雇用を維持できているという点では頼りになるところである。
・部品供給や周辺サービスの提供などの面で、ビジネスパートナーとして地場産業との連携を図っていけるよう、県としても力を緩めないよう、予算を措置していく。

谷口学長
・時代のニーズに合った大学となるよう、大学としても考えておかないといけない。
・産業のためにソフトウェア情報学部は大きな役割を果たしてきたが、今後は組込ソフトなどにどう対応強化させていくかを考えていく必要がある。
・ソフトの進化にあわせて、若い学者や専門家を育成していかなければならない。
・人材がいないと企業は出てこられないので、大学の役割としてはよい技術者を輩出していくということ。
・岩手大学の工学部との連携などを強くしていくことが重要な課題である。

平山館長
・秋田や青森に比べて、盛岡駅には活気がある。交通体系の整備が直結している。
・宮古～久慈間の幹線道路、国道３４０号、肋骨道路の整備、４つの重要港湾の整備など、産業育成のためには社会基盤の整備が必要であり、選択と集中を図って整備しなければならない。

玉山社長
・教育の視点が産業振興においても必要であり、地域づくりと共通する側面が多い。
・岩手県の中の盛岡一高が、県を超えた戦いをしなければならなくなってきた。
・大学だけが学ではない。小中高も学であり、商店街ではキッズマートなどの取り組みを

行ってきた。昔はできなかったようなことができるようになってきているのは大きな進歩といえる。
・銀座のアンテナショップで様々なイベントが開かれているが、維持管理のために売れ行きばかりを気にして、本質を忘れてはいないか。もっと広報が必要ではないか。身内ですら制度を知らされていない、わからない。
・セクターも大事だが、それらを超えて共通の土俵で議論することが必要である。

<協議事項>
作業部会からの提案について
資料２「雇用を守り人材を育成する「緊急アクションプラン」」、資料３「「買うなら岩手のもの」運動への取り組みについて」により岩手県大平政策調査監から説明

平山学長
・北東北３県で買うなら秋田、青森のものもという発想はなかったか。
・岩手はもっと自信をもってもいいのではないか。

谷口学長
・あんまり“岩手、岩手”と言わないほうがよいのではないか。
・“岩手、岩手”といわれなくてもよいものは買ってもらえる。あんまり言うとむしろ反発を感じる人も出てくるのではないか。
・もう少しおおらかな気持ちで岩手はいいんだといえばいいのではないか。無理して“岩手、岩手”と言うと逆効果。

達増知事
・バイアメリカンといったように、国際的な保護主義が懸念されるところであるが、買うなら岩手のもの運動は、情報に関する取り組みが柱だと理解している。
・岩手に住んでいる人が、岩手にどういうものがあるのかを知らない人が多い。
・一般的な岩手県民は、東芝のテレビに使われている半導体が岩手でつくられていること、関東自動車で組み立てられた自動車が販売されていること、などを知らないので、そこを知ってもらおうという運動である。
・自由な選択として岩手のものを選んでもらえるよう、選ぶ前提として、まず岩手に何があるのかを知ってもらうことからはじめようという運動である。
・雇用の関係でも、大学や高校を卒業した技術者、技能者が県内にどんな会社があるのかを知らないので、今回提案された工場見学会なども非常に大事な取り組みである。
・町工場にももっと目を向けてもらう機会、町工場にこそ活躍の場があることを知ってもらう、きっかけの場となってくれることを期待する。

・買う方も、雇用の方も、岩手の中について、岩手の人がお互いに知り合うことが決定的に足りなかったことがあり、そこを意識転換していくことが重要である。

永野会長
・商工会議所の地産地消運動はスローガン的だったが、岩手の食材を使っているお店におすすめの店の看板を置いてもらっている。
・岩手の人が岩手のものを食べて宣伝していくことが必要である。
・地産地消と買うなら岩手のもの運動とは相通ずるものがあるのではないか。
・お金の足が速くなっている。地方にお金が滞留しない。揚げ超（あげちょう：資金の引き揚げ超過）が頻繁に行われるようになった。
・地域通貨をつくり、20 億の発行で３年の有効期限である程度インセンティブをつけると３年で１０回転すると２億の効果が期待できる。25 日に説明する予定である。
・当たり前のことのよさを認識して県外の人にも教えることが大切である。

玉山社長
・コピーライティングに工夫が必要である。
・価値の再認識という点ではよい。
・盛岡商工会議所で行っている「地域で縁を結ぶ交流会」といった地元を愛するマインドとも相通ずる。

元持社長
・先輩の姿を見て先が見えてしまう。
・高齢者の面倒をみていける世界をどのようにつくっていくか。

谷口学長
・いいものをつくれば愛着があるから買うはず。

達増知事
・せっかくの機会なので、新たな才能を掘り起こすという面からも公募としたらよいと思う。

＜報告事項＞
① 「県民みんなで支える地域医療シンポジウム」について岩手県立大学久保事務局長代理より報告
② 産学官連携拠点形成支援事業への提案について岩手大学小野寺教授より報告

＜その他＞
平山館長
・機構の設立からラウンドテーブルのメンバーとして関わってきた。大学人としては出すぎたところがあると考えながら、できる範囲でやってきた。
・この際、機構は、機動性を重視する観点から、組織の長がふさわしいということで私自身大学の長として推薦いただいたが、既に大学の長を退いていることもあり、１年しかできませんでしたが、お手伝いできたと思うので、この際退任をさせていただきたい。
・連携のマインドは、恵みは巡るということなので、そういう気持ちをもちながら地域でまたお手伝いできることがあればお手伝いしたいと思っている。
・お世話になりました。お礼を申し上げて、退任をお許しいただきたいと思います。

谷口学長
・いわて未来づくり機構でいろいろお世話になり、勉強させていただきました。
・短い期間でしたが、非常によい経験にもなりました。
・岩手はすばらしい自然と、地産地消すばらしいものがあります。もっと自信を持ってやっていただければと願っている。
・岩手は日本の中でも地方を代表する県になっていくポテンシャルをもっているし人材もどんどん出てきている。
・県立大学でも、すばらしい積極的な学生が出てきているのは嬉しいこと。
・岩手県は五大学が連携しながらやっていくんだ。これからも大学間の区別がなくて、お互いに岩手県のためにやっていくんだという基盤をつくっていけば、立派な教育立国になっていくと思う。
・私は将来４年間お世話になったことのつながりとして新渡戸国際塾をやってみたいというのが希望であり、事実具体的にどういう形でやっていくか進めていきたいと思っており、決して岩手を去っていくわけではない。
・いわて未来づくり機構も去りたくはないのだが、出て行けというので出て行くが本当にお世話になり、愛着を持っている。
・これからもいろいろと教えていただきたいと思います。
どうもありがとうございました。

達増知事
・平山先生、谷口先生、それぞれ大学の法人化という大変な中で、いわて未来づくり機構の立ち上げにご賛同いただき本当にありがとうございました。ぜひこれからも岩手のためにご提言いただきたいと思います。